資料1

第10回　障害のある人もない人も共に暮らしやすい
千葉県づくり推進会議

『障害』とは何か?

～「障がい」理解から、「障害」理解へ～

桜美林大学　健康福祉学群
准教授　谷内孝行

自己紹介

・桜美林大学健康福祉学群社会福祉学専攻　准教授
　（研究テーマ：障害の社会モデル、差別・偏見の解消に向けた研修プログラムの開発と効果）
・和歌山県和歌山市出身、先天性の視覚障害者（弱視）:全色盲
・大学院時代に東京都北区で市民活動を開始、「ＮＰＯ法人ピアネット北」（基幹相談支援センター、重度身体障害者グループホーム、療育相談事業、絵画教室等を運営）を設立、現在に至るまで25年間、事務局長兼ソーシャルワーカー
・「ＮＰＯ法人障害平等研修フォーラム」理事、障害平等研修（DET）を全国各地で実施
・千葉県障害のある人の相談に関する調整委員会委員、調布市障害者差別解消地域協議会、台東区障害者施策推進協議会、北区地域保健福祉計画策定委員会など
・社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師、消費生活相談員（国家資格）、防災士

ワークシートA　　障害とは何か？①

「障害とは

である。」

ワークシートB　　ビデオ分析記入用紙

①タクシー　　⑦

②　　⑧

③　　⑨

④　　⑩

⑤　　⑪

⑥　　⑫

ワークシートC　　障害とは何か？②

「障害とは

である。」

障害平等研修
(Disability Equality Training：DET)

DETは障害者差別解消法を推進するためのワークショップ型の研修。障害者の社会参加や多様性に基づいた共生社会を創ることを目的としている。対話を通じた「発見」を積み重ねる中で、差別や排除など、社会のなかにある様々な「障害」を見抜く力を獲得し、それらを解決していくための行動の形成を目指す

前半：障害の社会モデル視点の獲得
後半：社会モデルの視点をもとに具体的な解決行動を考える

障害とは何か？①個人モデル

・障害（機能障害）の原因は「個人」（身体・精神）にあり、これらに対して、専門家による個別的な治療が必要である

・目標は治療、リハビリにより個人が社会の中に「適応」できるようになること（日常生活の中の動作を獲得する）

障害とは何か？②社会モデル

・障害は個人に帰属するものではなく、「社会環境」によって作り出される、障害の原因は社会にある。
（例：街の中の段差、人々の差別・偏見）

・目標は社会へ働きかけ（人的・物的環境の改善）、社会を変化させることにより、障害を減少、消滅させること

そもそも「モデル」とは何か？

社会や問題を洞察（物事を観察して本質を見抜くこと）する際に用いる「見る視点」を意味する。

【個人モデルのメガネで見ると】



【社会モデルのメガネで見ると】



この中に「障害」はありますか？



・「障がい」
　立つことができない足

・「障害」
　電車とホームの間の隙間

⇒　駅員のサポートで解消
　（合理的配慮の提供）